

「心に残った戦争での出来事」

老蘇小学校 六年 おかもと あゆこ 岡本 歩子

私は鹿児島研修旅行に参加して、心に残ったことが二つあります。

まず一つ目は、知覧特攻平和会館に行った時に、なでしこ隊についての動画を見たことです。なでしこ隊は、特攻隊員の世話をする人達です。その人達は女の人で、十六才くらいだそうです。それを聞いて、私はおどろきました。なぜかという、私は三十才くらいの家事に慣れている人達がやっていると思っていたからです。もし私が戦時中に生まれていたら、五年後にはなでしこ隊に入ります。その時、特攻隊員の人を間近で送り出すと思うと、すごく悲しいことなので、なでしこ隊には入りたくないなと思いました。だから、なでしこ隊の人達はとても辛い思いをしていたはずなのにすごいなと思いました。なでしこ隊の人達はみんなで励まし合ったり、自分の気持ちを伝え合ったりして、辛さを分かち合ったので続けられたのかなと思いました。

次に二つ目は、富屋食堂で鳥浜トメさんのひ孫さんから聞いた特攻隊員のことです。一番心に残ったお話は、宮川軍曹のお話です。宮川軍曹は特攻に行く前「おれ、ほたるになって帰ってくる。」と言って特攻に行きました。そうしたら本当にほたるになり、もどってきたそうです。私は、宮川軍曹は強く富屋食堂に帰りたかったからほたるになって帰ってきたのかなと思いました。あと富屋食堂は特攻隊員からとても安心できる場所とされていたからかなとも思いました。戦後にトメさんは元飛行場に木のくいをさして、それを特攻で亡くなった人達のお墓にしたそうです。トメさんはみんなに特攻のことを伝えたいと思ってお墓をつくったのかなと思います。

私は鹿児島研修旅行で戦争の時の人の気持ちが分かったような気がします。

友達にも学んだことを話してみんなに知ってもらおうと思います。

令和7年度「平和のへ誓い」

「鹿児島での学習を終えて」

老蘇小学校 六年 かたおか 片岡 ゆづき 優月

私が、なぜ鹿児島に行って戦争のことを学ぼうと思ったかということと平和の大切さを知り、それをほかの人々に伝えていくためにどうしていけば良いか考えるために参加しようと思いました。研修で心に残ったことは特攻隊の話です。

私は戦争があった時代では平和の事を考えず、国が勝つことばかりを考えていたと思っていました。でも、ホテル館に行って分かったことは、特攻隊の中には国だけじゃなく、みんなを守るということを決め戦争に行った隊員もいたということを知りました。その話を聞いて私は、国よりも自分よりもみんなを守りたいという特攻隊の気持ちが一番印象に残りました。次に平和への思いで造られた万世特攻平和祈念館での学習です。そこでは実際の戦闘機や、隊員たちが最後に書いたメッセージ寄せ書きなどが、たくさん展示してある場所でした。そこには、死を間近にひかえた隊員が残したメッセージもありました。

それは、『兄弟ゲンカをするな、母上を困らせるな、体を大切に、勉強をがんばれ』ということが書いてありました。それを読んで私は、最後まで自分より家族のことを大切に思っていたのだと感じました。

今回の研修を通して私は、自分たちの命を犠牲にしてまで日本を守ろうとしてくれた隊員たちに感謝して、これからも命を大切に生きていきたいと感じました。また戦争の恐ろしさや平和の大切さを学んだからこそ、その思いを忘れずにしっかりと心にきざんで受け継いでいきたいです。その為にも学校や友達、将来出会うたくさんの人達に伝えていきたいと思います。